



テュートリアル課題 鼻血が止まらない

著者名	東京女子医科大学
雑誌名	テュートリアル課題
巻	2014
号	S7
発行年	2014-03-28
URL	http://hdl.handle.net/10470/00032351

2014年度 Segment. 7

課 題 No. 1

課題名：鼻血が止まらない

課題作成者：血液内科学
感染症科

志関雅幸
平井由児



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

Aさん（35歳男性）は、中堅食品メーカーの営業職で、体力には自信があるようです。これまで、これといった病気にかかったことはありません。昨日の夜に何年ぶりで鼻血が出たのですが、なかなか止まりません。また、1週間くらい前から打ってもいないのに青いあざが四肢や体幹に出るようになりました。

シート2

会社が休みだったAさんは、近くの総合病院の耳鼻咽喉科で診察を受けました。すると血液検査を受け、内科に行くように指示されました。検査結果が出て内科医の診察を受けると、すぐに大学病院の血液内科を受診するように言われました。

シート3

翌日、大学病院の血液内科を受診しました。あらためて診察を受け、血液検査を受けました。血液検査のデータを示されて、すぐに入院するようにと言われました。そして骨髓穿刺という検査を受けました。

シート4

入院後、担当医から告げられた病名は急性前骨髄球性白血病という思いもよらぬものでした。直ちに治療を始めなければいけないということでした。担当医は病名や治療法を紙に書きながら説明をしていきます。

シート5

治療により完全寛解となったAさんは、引き続き地固め療法という治療を受けることになりました。

治療開始から10日目の夜、寒さと震え、39度の熱が出ました。何だか気分が悪く、意識はもうろうとしています。当直医が採血や処置をしています。

血液培養を採取した後、抗菌薬（第4世代セファロスポリン系抗菌薬：セフェピム）の点滴も始まりました。

3日後、血液から緑膿菌という細菌が検出されたようです。また、左の尿管に結石があり、軽度の水腎症を起こしていたこともわかりました。そういえば発熱を認めた際に左腰背部が痛みを自覚していました。

シート6

Aさんの血液培養より検出された緑膿菌は最初から投与していたセフェピムに良好な感受性を示していました。

また、Aさんの左尿管結石は自然に排石され、水腎症も改善していました。
腎周囲膿瘍や化膿性脊椎炎などの菌血症の合併症を認めませんでした。

造血も回復（白血球数 $5500/\mu\text{L}$ （好中球 88%））し、計2週間のセフェピムの点滴治療を終了しました。

Aさんは、その後の化学療法は全て順調に進み、現在は社会復帰し元の職場で元気に働いています。定期的な外来通院を行い、経過をみながらですが、営業職にも復帰する予定です。